

# えべつの未来づくりミーティング

## ～ まちづくり関係団体編 ～

令和4年4月25日（月） 江別市民会館2階21号室  
午後2時～午後4時5分

### 1 江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、大学生が多いこと。一方、統計データから見ると、良い悪いは別として観光系が弱いと思う。

・強みは、商業施設が点在しているほか、交通渋滞が比較的少なく、車での買い物がしやすいこと。また、住宅を購入したが、その際、比較的広い住宅地を確保しやすかった。弱みは、大雪への対応。また、市内の各地区の駅周辺に格差を感じることもあり、JR 江別駅付近は店が少ないと感じる。

・強みは、子育て環境が充実していること。子育てひろば「ぽこ あぽこ」などの施設もあり、子育て世帯には良いのではないかと。弱みは、学生が卒業後、市外に転出してしまうこと。江別市に残って定住するにはどうすればよいかを課題だと思う。

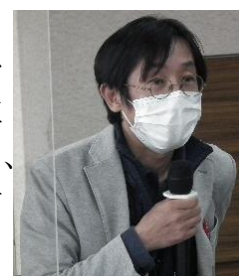
・強みは、市民活動がしやすい規模であること。自分の事務所も市役所の近くにあって、何かあったら、すぐに市役所に行くことができる。市の活動支援もチャレンジしやすい枠組みで、市民活動団体相互の連絡もとりやすく、交流しながらいろいろな活動ができる。弱みは、高齢者が多いので、その方々に、どのように情報を伝えるかが課題であること。そのため、広報えべつの役割が非常に大事だと思う。

・強みは、札幌市に近いこと。買い物がしやすく、地価も比較的安く、緑もあって、転入者が多い。また、若い人が多く、チャレンジすることに寛容で、いろいろな活動をしやすい。弱みは、札幌市に近いゆえに、札幌市に目が向いてしまいがちなところ。江別市の魅力度や認知度があまり高くないことが、観光面の弱さにもあらわれているのではないかとと思う。

・強みは、人口規模がちょうどよく、江別・野幌・大麻と地区が並び、真ん中に市民活動センターがあって、相談できる仕組みになっていること。子育て世帯からは、のんびりしていて過ごしやすいという声を聞く。保育園が増えており、日曜日に子どもを預かってもらえるところも増えている。弱みは、放課後児童クラブ。今いる子どもたちがこれから大きくなるので、放課後児童クラブの受入れを整えていくことが課題だと思う。そのほか、自家用車がないと不便。車を持たない保護者からは、バスで行ける範囲が限られているという声を聞く。

・大学生が、卒業・就職を機に、一度江別市から出て行って、各地で活動することは良いことだと思う。結婚や転職など、人生の転機に、また江別市に戻ってきてもらえるような意識づけをして卒業してもらうことが必要ではないだろうか。

・観光面が弱いという話があったが、昨年度試行したレンタサイクル事業では、市外の人が江別蔦屋書店や町村農場に行くために利用されていた。江別市の観光ポイントをインターネットなどで探して、江別市に来てくれて、レンタサイクル事業を利用し、観光していた人が結構いたことは明るい話題だと思う。



## 2 10年前と現在の、各団体の意識と市民の意識の変化について

- ・10年前と今を比べて、所属する団体の数に変化はない。今、60歳代は退職ではなく、現役で働いている方が多く、趣味も多様化しており、活動に参加しない人も多く、参加者の高齢化が悩みという団体は多い。特にこの数年は新型コロナウイルス感染拡大もあり、次の世代に移行できていない状況も見られる。負担が団体の代表に集中して、耐えられなくなっている状況もある。一方で、市民活動団体という枠組みではなく、個々のグループで活動している人も増えている。また、農家のお母さん方が農作物を作るだけでなく、販売にも関わるなど、多様化の中で変化している状況も見られる。若い人たちも活動しやすい土壌づくりや、もっと気軽に参加できるように情報を発信していくことが必要だと感じている。
- ・市民活動団体を対象としたアンケート調査によると、人材、費用、活動場所の課題は、ほとんどの団体が抱えている。
- ・ごみの有料化や分別方法の変更などもあり、10年前から、ごみを出さずにお譲りするという観点でフリーマーケットを始めた。最近ではSDGsの普及もあり、リサイクルやごみに対する関心や意識が高くなっていると思う。最近では、インターネット上で売買することが増えているが、フリーマーケットならではの対面の良さがあり、開催に対する要望も多い。
- ・10年間で若い世代が地域に入り込めるようになってきたと思う。地域の一員として、コミュニティのつながりを求めている若者が増えているように思う。支え合わないと生きていけないという意識を若者と共有できるようになってきた。ただ、このような若者の意識の変化に対して、地域の受け皿がまだ十分ではないと思っている。若者が求めるつながり方と、地域が若者に求めるものとは違って、このミスマッチをどのように解消していくのかを考えながら活動している。
- ・10年前は、働いていない母親が多かったが、今は働いている母親が非常に多く、つながるのが大事だと思いつながることが難しくなっていると感じている。一方で、学生のボランティア活動が盛んになってきており、そのような活動に引っ張られて、大人も参加しやすくなるかと思っている。多世代交流サロンをしていると、世代に関わらず「誰かのために何かをしたい」という声は多い。



## 3 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・どの分野も、若い人への投資が必要。若い人に何が必要か、どのようなまちに住みたいかを把握し、若い人に選ばれるまちになっていくことが必要。次の世代の人の意識は確実に変わってきている。意見をどのように言えばいいのかわからない若い人もいる。手間がかかっても聞きに行くことが必要。また、若い人たちが活動しやすいまちになることも必要。ふるさと納税でNPO等による地域活動等を支援している佐賀県のような取組があっても良いのではないかと思う。
- ・札幌市などからの転入が多いが、このような状況が続くと良いと思う。また、子育てひろばのような活動への支援が増えて、市内の各地で地域に密着した子育ての取組が増えたら良いと思う。
- ・市内の交流人口をもっと増やしていくことが大事だと思う。まちに興味を持ってもらい、いろいろな人に活動の楽しさを伝えて参加してもらおう。間口を広げて入口をたくさんつくれば、多くの人にまちへの興味を持ってもらうことができ、助け合いや協働のまちづくりの実現につながるのではないかと思う。それらの活動が盛り上がったまちには、市外から人が来るし、定住や観光にもつながると思



う。内側（市内）に「楽しい」を沢山つくる必要があると思う。

- ・子育て環境が整っているにもかかわらず、合計特殊出生率が低いことが課題だと思う。産むための環境づくりも充実させていくことが必要なのではないか。
- ・少子高齢化が進む中で、救急需要が高まっていくことが懸念される。地域の見守り制度をより一層整えていくことが大事だと思う。また、DX（デジタル・トランスフォーメーション）に関する事業が進められているが、市内の4大学と連携して教育体制の充実につながるような取組が進められれば、全国的に江別市が注目されて、明るいニュースにつながるのではないかと思う。
- ・大胆な発想だと思うが、取組を行いやすい都市の規模なので、いろいろな都市宣言をしてはどうか。「見守り都市宣言」「みどりの都市宣言」「子育てにやさしい都市宣言」など。まず、宣言をしてから、市民や企業などと連携して市を育てていくことにしてはどうか。
- ・自分の団体に関して言えば、副業を解禁している。働いているうちに、つながりを持ってもらうことが必要だと思う。一つの団体だけではなく、いろいろな団体に参加することを勧めている。
- ・地域の見守りについては、見守らなければならない方々に、地域に出てきてもらうことも大事だと思う。そのための場所づくりは苦勞するが、それを解決して進めていくことも必要だと思う。
- ・今は、元気な長寿の方が多い。これからも健康寿命を延ばしていくことは大事だと思う。
- ・多世代交流サロンをしている中で、自治会とつながっていくことが大事なのではないかと感じている。また、ただサロンを開いているだけではなく、何かとつなげられたら、高齢者などの参加者をもっと増えるのではないかと感じており、今、模索しているところである。
- ・江別市には戸建てが多いが、隣人との交流が少ない方もいるのではないだろうか。日頃から近所とのつながりを持てるようにしていくことが、住みやすいまちづくりにつながっていくのではないかと感じている。

